

Catch Ball

2020

February

2

Vol.880

CONTENTS 【特集】令和元年産 農産物を振り返る

- 青年部通常総会開催ほか…8
- 収穫祭おぼろづき2019開催ほか…9
- フォト日より…10
- 理事会日より…11



金融課では受験シーズン中、願書用収入証紙購入の方に合格祈願のプレゼントを用意しています。



J A びばい管内の基幹作物である水稲をはじめ小麦・大豆・その他園芸作物の生育状況などを振り返ります。
今年度の営農の参考にお役立てください。

水稲

▼令和元年度の生育経過▲

1 融雪と耕起作業

今年度は3月下旬の頻繁な降雪により融雪が進まず、融雪期は平年並になりました。(空知農業改良普及センター調べ。以下の生育期節も同様。)

耕起作業は、好天が続いたため、ほ場の乾きが進み、耕起最盛期は5月1日(早3日)と平年より早く進んだ。

2 は種作業

は種作業は、は種始4月19日(±0日)、は種期4月22日(早1日)と平年並となった。

3 育苗

出芽期は4月28日(早1日)となり、は種から出芽までの日数は平年の6日間だった。育苗期間は好天の日が多く、日中の最高気温も高かったため苗の生育は進んだ。移植

時の苗質は平年よりやや徒長し、葉齢の進んだものとなった。

表1 「ななつぼし」の苗素質(中・成苗平均)

	R1年	平年	差・比率
草丈 (cm)	14.9	14.5	0.4
葉数 (枚)	4.1	3.8	0.3
莖数 (本)	2.5	2.5	0
第一鞘高 (cm)	1.6	1.5	0.1
乾物重 (g/100本)	3.6	3.6	100%
充実度 (乾物重/草丈)	0.2	0.2	121%

4 移植作業

移植は、ほ場準備が順調に進み、苗の生育も進んだことから、移植始5月17日(早4日)、移植期5月20日(早5日)、移植終5月26日(早4日)と平年より4〜5日程度早く進んだ。

移植期〜活着期までの日数は、5日間と平年並だった。但し、徒長苗が移植されたほ場では、5月20、21日の強風とその後の高温により植傷みを生じた。

5 初期生育

5月下旬から6月上旬の気温が極めて高かったため、分けつの発生が

旺盛となり、6月15日時点の莖数は平年対比175%と多くなった。

表2 「ななつぼし」の生育経過(中・成苗平均)

調査月日		草丈 (cm)	葉数 (枚)	莖数 (本/m ²)	遅速日数
6月1日	R1年	20	5.1	98	早3
	平年	17	4.7	101	
6月15日	R1年	31	7.1	307	早4
	平年	27	6.6	175	
7月1日	R1年	42	9.1	624	早5
	平年	41	8.7	468	
7月15日	R1年	62	10.2	702	早4
	平年	63	10.3	681	
8月1日	R1年	82	10.4	643	早1
	平年	87	10.8	619	
-		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	-
8月1日	R1年	68	15.8	643	早1
	平年	75	17.3	597	

6 前歴期間・冷害危険期

幼穂形成期は、6月27日(早5日)となった。

前歴期間〜冷害危険期にあたる7月上旬〜中旬は曇天の日が多く(日照時間・平年対比73%)なり、稔実歩合に影響する最低気温13℃以下の日はなかった。

7 出穂

7月上旬以降の日照不足の影響で、生育の進みが緩慢となり、出穂期は、7月28日(早1日)となった。また、遅れ穂が多く穂揃いはやや不良だった。

一方、7月10日頃から、成苗ポットの「ななつぼし」を中心に早期異常出穂がみられ、育苗後半にあたる5月中旬の高温の影響と考えられた。



表3 「ななつぼし」の生育期節(中・成苗平均)

	出芽期	活着期	分けつ始	幼穂形成期
R1年	4月27日	5月25日	6月4日	6月27日
平年	4月29日	5月29日	6月8日	7月2日
遅速	早2	早4	早4	早5
	出穂始	出穂期	出穂揃	成熟期
R1年	7月24日	7月28日	8月1日	9月13日
平年	7月25日	7月29日	8月2日	9月13日
遅速	早1	早1	早1	±0

8 登熟期間・成熟期・収穫作業

出穂期〜成熟期の日数(登熟期間)は、47日と平年並となった。

収穫作業は、成熟期が平年並となり、収穫始が9月18日(遅1日)と平年並にスタートし、収穫終は9月30日(早2日)となった。

9 収量構成要素・収量・品質

中苗は、総粒数は平年並だったが、千粒重は登熟期間の高温や遅れ穂の登熟不良によりやや軽くなった。

成苗は、m²穂数はやや多くなったが1穂粒数が少なくなり、総粒数は



平年並となり、中苗と同様の理由で千粒重が軽くなった。

表4 「ななつぼし」の収量構成要素（普及センター作況）

育苗様式	㎡穂数 (本/㎡)		1穂粒数 (粒/穂)		㎡総粒数 (粒/㎡)		稔実歩合 (%)		千粒重 (g)	
	R1年	平年比	R1年	平年比	R1年	平年比	R1年	平年比	R1年	平年比
中苗	618	100%	60.3	102%	37,231	102%	94.4	101%	21.6	97%
成苗	651	113%	51.9	85%	33,665	96%	91.0	97%	21.4	93%

北海道農政事務所による南空知の予想収量（12月10日公表）は、10a 当たり543kg 作況指数104と

と発表されている。

品質は、青未熟粒、部分着色が見られ、製品歩留まりは低くなっている。青未熟粒は、育苗時期の高温による早期異常出穂や遅発分けつによる穂揃い不良による登熟のバラツキによるものと推察される。部分着色は、斑点米や紅変米があった。斑点米においては、カメムシが一時的に発生が多く、基幹防除で減少したが、防除間隔が長い管理や防除回数が少ないなどの場合に被害が出たと考えられる。

また、タンパク値が高くなったのは、生育後期の7月下旬から8月上旬に高温になったことで、土壌アンモニア態窒素の溶出量増加が影響したためと考えられる。

10いもち病
9月1半旬に穂いもち病の初発を確認した。その後も、全体的な発生は無く、一部の発生に止まった。11カメムシ
カメムシの発生は、トラップや捕虫網による調査の結果から、発生量が多い傾向がみられた。一部に斑点米による被害粒がみられた。

12紋枯病（疑似紋枯症含む）
紋枯病の発生は多くなかったが、毎年発生しているほ場では病徴がみられた。

令和2年度に向けて

1 初期生育促進と穂揃い性向上対策
ほ場の乾田化、は種時期や育苗日数の見直し、適期移植の厳守、移植後の適正水管理、側条施肥の割合向上など、基本技術を実践する。

2 冷害危険期の深水管理の徹底
幼穂形成期を必ず確認し、冷害危険期は深水管理を徹底する。また、水深を確保できるように畦畔の補修を行う。

3 いもち病対策

いもち病発生ゼロに向け、引き続き万全の対策に取り組む。

4 紋枯病対策

今年の収穫期に、止葉葉鞘まで病斑が達している株が散見されたほ場は、翌年7月下旬（出穂前）に浅水として、葉鞘下部に十分付着するよう薬剤散布を行う。

また、有効な薬剤を確認してから散布する。

5 カメムシ対策

出穂期及びその7～10日後の2回は基幹防除とし、必ず防除する。

基幹防除以降の防除は、散布予定日の2～3日前に水田で20回振りすくい取りを行い2頭、フェロモントラップの場合は7日間2.2頭の捕獲数に達した場合に追加防除を行う。

秋まき小麦 きたほなみ

▼生育経過▲

○令和元年産秋まき小麦のは種始は、平年より3日早い9月9日だった。その後は9月中旬下旬に降雨日が少なかったことから、は種作業は進み、は種期が9月13日、は種終が9月21日となり、平年より9日早くなった。

表1 秋まき小麦の作業・生育期節と生育状況

	(きたほなみ越冬前後)		
	R元年産	平年	遅速(差)
は種始	9月9日	9月12日	早3日
は種期	9月13日	9月22日	早9日
は種終	9月21日	9月30日	早9日
出芽期	9月20日	9月28日	早8日
根雪始	11月21日	11月29日	早8日
越冬前葉数	6.9葉	6.1葉	+0.8葉
越冬前茎数(本/㎡)	1,705本	1,127本	+578本

○は種作業が早かったため、出芽期も平年より7日早まった。出芽後の生育は順調に進み、越冬前の葉数は平年より0.8枚多い6.9葉、㎡当茎数は平年より48%多い1,609本/㎡となった。このため茎葉が繁茂し、越冬



前に肥切れしたほ場や赤さび病やうどんこ病が散見された。
○根雪始は平年より8日早い11月21日、融雪期は平年並の4月6日で、積雪期間は138日と、平年より8日長くなった。

表2 秋まき小麦の生育期節と遅速（きたほなみ越冬後）

	令和元年	平 年	遅速(差)
融雪期	4月6日	4月6日	±0日
起生期	4月10日	4月11日	早1日
幼穂形成期	5月3日	5月4日	早1日
止葉期	5月25日	5月27日	早2日
出穂期	6月1日	6月4日	早3日
成熟期	7月13日	7月18日	早5日
収穫始	7月18日	7月22日	早4日
収穫期	7月22日	7月25日	早3日
収穫終	7月27日	7月29日	早2日

○雪腐病の発生は昨年より少なかったものの、一部ほ場では褐色雪腐病等による被害により廃耕となったほ場もあった。
○融雪期が平年並だったが、起生期、幼穂形成期は1日、止葉期は2日早まった。
○出穂期は平年より3日早く、開花も早まった。登熟期間の日照時間は平年より0.6時間/日短かったもの

の、平均気温は平年より0.7℃/日高く推移し、成熟期は平年より5日早まった。

表3 雪腐病の発生状況（空知農業改良普及センター本所）

	単位：ha、%					計
	大粒	褐色小粒	黒色小粒	紅色	褐色	
発生面積	0	1,404	179	1,897	1,730	5,210
割合	0	27.0	3.4	36.4	33.2	

○茎数は越冬後、幼穂形成期は平年より多く推移したが、幼穂形成期後は茎数の淘汰が進み、早期に有効茎が確保され、成熟期の穂数は平年並の785本/m²となった。
稈長は平年より1.6cm長い77.1cm、穂長は平年より0.2cm短い9.0cmだった。
○登熟状況はやや良好となったこともあり、細麦は少なく、品質は良好

令和2年度に向けて

となり、収量も多収となった。
○赤さび病の発生が多く、上位葉まで病斑が進展しているほ場が見られた。また、一部ほ場では立枯病が発生し、減収となった。

は種作業は、は種始が9月6日、は種期が9月14日と平年より早く行われたが、その後は降雨による中断等により、は種終は9月27日となり2日遅れて終了した。
○10月15日現在の生育も平年より進んでおり、草丈は平年より0.8cm長い18cm、葉数は平年より0.5枚多い4.2葉、m²当茎数は平年より32本多い454本だった。

○令和元年産では、起生期の茎数を鑑みた施肥管理を行うことで小麦の受光態勢を改善し、多収につながった事例があった。令和2年度においても、適切な施肥管理に努める。
○「なまぐさ黒穂病」は、令和元年産においても北海道内各地で発生を確認していることから、引き続き出穂期頃からのほ場観察を徹底し、発生拡大を防ぐ。

○発生を抑えるための対策
①輪作の実施（最重要…連作を避け、4年以上の輪作の実施、緑肥の導入検討）
②健全種子の使用（採種ほ産種子の

- 使用）
- ③種子消毒の実施
- ④適期は種（遅まきをしない）
- ⑤適正なは種深度（深まきをしない）
- ⑥登録薬剤の散布（ただし耕種的防除と組み合わせることが前提）

発病リスクが高い場合は、対策を講じたうえで、翌年の見回りを徹底するなど、見逃しのないように心がける。

☆融雪促進に努めると共に、額縁明きよや補助暗きよを施工し、透排水性改善に努める。

☆秋まき小麦の減収要因は、連作障害や排水不良だけでなく低pH土壌が考えられるため、土壌診断に基づく石灰質資材の投入を検討する。

大豆 ユキホマレ

▼生育経過▲

○大豆のは種作業は5月3半旬から行われた。は種始・期ともに平年より2日早く、5月5半旬にはまとまった降水量があったが、出芽期は高温、小雨の影響で出芽が不揃いになったほ場もあった。

○6月の気温は2半旬までは平年よりも高めで、その後は平年並に経過した。降水量は6月1半旬が平年並、2・3・6半旬が少なく、4・5半旬が平年よりやや多くなった。日照時間は1・2・4半旬は平年よりやや



令和元年産 農産物を振り返る

○7月は5半旬までは、ほぼ平年並の気温で経過したが、6半旬には最低気温が平年の平均気温を上回る程の高温になった。降水量は3・6半旬以外は平年よりも少なく、日照時間は2半旬に多くなった以外は平年よりも少なめに経過した。

○8月は1半旬が高温、3・4半旬が平年よりも気温が低くなり、降水量は1・3・5半旬が少雨、2・4・6半旬が多雨と交互に変わった。日照時間は6半旬以外は総じて平年よりも少なく、徒長気味のほ場も見られ、着莢数は平年よりも下回ったほ場もみられた。

○9月は2・6半旬が平年よりも気温が高かった以外は総じて平年並に経過し、降水量は4・5半旬が多くなった以外は総じて平年並かやや少なく、日照時間は1・6半旬が平年よりも多くなった。成熟期には平年よりも4日早く達した。

○10月は1・2半旬の降水量が平年よりも多くなったが、成熟期が早かったことから収穫作業も早まった。

○8月に多雨と平年よりも日照時間の少ない期間があったことから百粒重は平年をやや下回ったが、着莢数が平年よりも多く子実重は平年並かやや多くなった。

表5 大豆の作業・生育期節と遅速(ユキホマレ)

	R元年	平年	遅速(差)
は種始	5月19日	5月21日	早2日
は種期	5月27日	5月29日	早2日
は種終	6月6日	6月6日	±0日
出芽始	6月3日	6月7日	早4日
出芽期	6月7日	6月12日	早5日
開花始	7月14日	7月18日	早4日
開花期	7月17日	7月20日	早3日
成熟期	9月19日	9月23日	早4日
収穫始	10月3日	10月5日	早2日
収穫期	10月10日	10月15日	早5日
収穫終	10月22日	10月24日	早2日

平や多く、6半旬は平年よりやや少なくなった。

○10月は1・2半旬の降水量が平年よりも多くなったが、成熟期が早かったことから収穫作業も早まった。

○8月に多雨と平年よりも日照時間の少ない期間があったことから百粒重は平年をやや下回ったが、着莢数が平年よりも多く子実重は平年並かやや多くなった。

○マメシンクイガは、一時的に発生量が多い地域もあったが、総じて発生量は平年よりも少なかったものの、一部の防除タイミングが合っていないほ場では、子実への被害がみられた。

令和2年度に向けて

昨年大豆のは種時期は降水量が少なく種子が十分に水分吸収できずに出芽不揃いとなったほ場が見られたことから、土壌を乾燥させない工夫(整地後すぐには種する、は種後に鎮圧ローラの施工)を検討する。

○昨年は降水量の少ない期間と多い期間が交互に現れ、特に8月6半旬の降水量は121mm(平年比39

2%岩見沢アメダス)と多くなった。このような多雨の際にも速やかに排水を排除できるように、暗きよの点検と額縁明きよや無材暗きよなどの補助暗きよを整備しておくことが大切。

○雑草対策
 本年は、汚粒防止のために収穫前の抜草が必要なほ場もあった。は種の天候と土壌条件を見極め、適切な除草対策を講じる。また、大豆間作小麦の作付予定ほ場で、雑草密度が高くなったほ場では、間作栽培を中止することも必要。

▼令和元年の生育経過と農作業状況▲
 (空知農業改良普及センター作況定点)
 は種作業は、は種始で早3日と平年より早く始まった。育苗期間中の気温が高かったため、出芽期も5日早まったが、高温多照の影響で、葉の黄化した苗が一部ほ場で発生した。

移植作業は、天候がよく、ほ場の乾燥が進んだことから、移植始が平年より3日早く、移植期で6日、移植終了で7日と、平年より早くなった。

移植後、5月上旬は適時降雨があり、活着は順調だったが、その後の高温少雨により、生育は前進し、球肥大期は平年より6日早く、倒伏期は7日早くなった。倒伏期以降(8月中旬以降)は、曇天や降雨が多く、枯葉の

進み方は緩慢となった。根切りは、降雨のため、平年並となったが、収穫期は平年より3日早くなった。

作況ほにおける収量は、平年に比べ高く、規格はし大中心となりまして、J・Aびばい管内では、ほ場間差の大きい年となった。

表1 たまねぎのR1年の生育概要(空知農業改良普及センター作況値)

		生育概況							
		5月15日	6月1日	6月15日	7月1日	7月15日	8月1日	8月15日	9月1日
草丈 (cm)	R01	13.8	26.6	50.0	70.4	77.7	65.7		
	平年	13.5	20.6	38.8	68.8	77.5	68.2		
葉数 (枚)	R01	2.2	4.9	6.6	9.3	9.8	7.8		
	平年	2.4	3.5	5.9	8.2	8.9	7.4		
葉鞘茎 (mm)	R01	3.5	7.1	11.9	17.3	19.8	16.3		
	平年	3.4	5.8	10.1	16.7	18.9	16.6		
球径 (cm)	R01					5.2	7.3	7.6	7.9
	平年					4.6	6.7	7.3	7.4
遅速日数		±0	早5	早4	早6	早5	早7	早3	早3

進み方は緩慢となった。根切りは、降雨のため、平年並となったが、収穫期は平年より3日早くなった。

作況ほにおける収量は、平年に比べ高く、規格はし大中心となりまして、J・Aびばい管内では、ほ場間差の大きい年となった。



表2 たまねぎのR1年の生育期節（空知農業改良普及センター作況値）

	生育期節					
	出芽期	球肥大始	球肥大期	倒伏始	倒伏期	枯葉期
R01	3/6	6/28	7/4	7/17	7/20	8/15
平年	3/11	7/4	7/10	7/22	7/27	8/18
遅速（日）	早5	早6	早6	早5	早7	早3

表3 たまねぎのR1年の農作業期（空知農業改良普及センター作況値）

	農作業期									
	は種始	は種期	は種終	移植始	移植期	移植終	根切り期	収穫始	収穫期	収穫終
R01	2/15	2/20	2/25	4/21	4/24	4/30	8/21	8/12	9/1	9/17
平年	2/18	2/25	3/3	4/24	4/30	5/7	8/21	8/17	9/4	9/16
遅速（日）	早3	早5	早6	早3	早6	早7	±0	早5	早3	遅1

『病害虫』

◎ネギハモグリバエ（表5、図1）

JAいわみざわ管内8カ所平均の数字
JAいわみざわ管内において、令和元年は、5月14日から予察を開始した。令和元年のネギハモグリバエ成虫の捕殺は、5月5半旬から始ま

表4 たまねぎのR1年の収量調査（空知農業改良普及センター作況値）

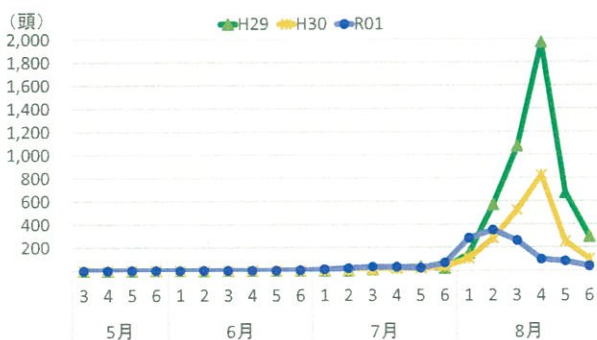
	収量調査（kg/10a）									
	2L	L大	L	M	S	規格内計	規格外	規格内率	合計	
R01	495	2,880	2,419	503	40	6,337	55	99%	6,392	
平年	539	1,660	1,833	732	122	4,886	346	93%	5,232	
平年差	-44	1,220	586	-229	-82	1,451	-291	0.1	1,160	

月	5月				6月				7月				8月							
	3	4	5	6	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
H29	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.5	0.8	0.7	0.2	0.3	0.7	9.5	27.6	35.3	21.3	149	571	1,076	1,972
H30	0.1	0.3	0.1	0.1	0.2	0.9	0.3	0.1	0.1	0.0	0.2	0.5	1.6	14.3	19.5	35.6	105	279	524	826
R01	-	0.0	1.1	1.1	0.9	2.5	1.4	1.9	3.2	4.5	13.1	21.9	33.9	31.6	23.1	67.4	280	351	259	97

↑表5

たまねぎほ場におけるネギハモグリバエ捕殺頭数の推移（JAいわみざわ管内8カ所平均）

図1→



った。これは平成30年に比べると遅かったが、5月の発生量は過去2カ年に比べ多い状況だった。これは、4〜5月の高温、5月中旬の少雨の影響と思われる。その後も、気温は高く推移し、捕殺数は7月4半旬までは、多く推移した。しかし、8月2半旬の降雨によって、最大ピークの捕殺数は過去2カ年より少なくな推移した。令和元年は、後半のネギハモグリバエの発生が少なかったことから、りん茎内部への幼虫食入などの被害はない年だった。



写真1 アザミウマ類の成虫と幼虫



図2 たまねぎほ場におけるアザミウマ類捕殺頭数の推移（JAびばい管内2カ所平均）

◎アザミウマ類（図2 JAびばい管内2カ所の数字）
令和元年のアザミウマ類捕殺数は、5月27日から調査を行った。4月中旬からの高温少雨により、捕殺数は調査開始から多い状況だった。その後も、高温少雨が続き、調査期間中すべてで、過去2カ年より多く推移した。調査地点での防除回数は、平成30年より増えており、発生量に応じた防除が行われたが、同系統の薬剤を使用している時があり、薬剤の選定には注意が必要。

射手座



旅行運に恵まれます。行くのはもちろんですが、計画を立てるのもお勧め。地域の集まりには参加して吉

蠍座



八つ当たりしがちなので、ご用心。イライラしたらお茶にしましょう。気持ちが悪く着き、良い考えが浮かぶはず

令和2年度に向けて

ほ場の融雪を促進し、適期移植が行えるよう準備する。育苗中のハウス内温度は、最低0〜5℃を確保し、晴天日は30℃を超えないように管理する。

生育期間中には、病害虫の発生予防に努め、適期に防除する。高温年には、アザミウマ類の発生が多くなる。系統の違う薬剤によるローテーション防除を行い、散布水量は十分確保する。

収穫後には、土壌診断を行い、結果に基づいたpHの矯正や、養分過多の場合は、減肥も検討する。

アスパラ

1. 令和元年の生育経過

①ハウス作型

例年通り2月中旬から、除雪やハウスビニールの被覆など作業が始まり、3月下旬から春芽の収穫が始まった。収穫期間中は日照時間が長く、天候に恵まれたが、前年秋の株養成が不良（9月の台風被害とその後の高温による萌芽や二次葉、下枝の発生）であったため、春芽が細かいことに加え、萌芽数が少なかったため、収量は平年を下回った。

立茎した親茎は少し細めで、目標とする本数を確保したが、草丈は低

かった。立茎中は日照に恵まれ、親茎の仕上がりは良好であった。

夏芽は6月下旬から萌芽が始まったが、7月中旬の曇天と乾燥により親茎の樹勢が一時的に低下し、萌芽が鈍かったが、天候の回復とともに、8月上旬にかけて収穫はピークを迎えた。8月下旬の低温により若茎の曲がりが発生し、緩やかに萌芽が止まり、9月3半旬に停止した。夏芽の収量は、平年よりも少なかったが、昨年よりも多かった。

②露地作型

春芽収穫期間中は少雨に加え、若茎が細く、萌芽数が少なかったため、例年よりも早く収穫を切り上げたほ場が多く、収量は平年を下回った。

立茎栽培では、立茎中も干ばつであったため、親茎の草丈は低く、擬葉が小さめでコンパクトな草姿であった。夏芽は7月下旬から萌芽が始まったが、親茎の樹勢が弱いことに加え、高温と少雨により、萌芽数の減少と頭部の開きが多発した。8月上旬の降雨により萌芽は回復したが、下旬の低温により若茎の曲がりが発生した。夏芽の収量は昨年並み多かった。

慣行栽培は、8月下旬には翌春に必要な生育量は確保したが、草丈は短く、萌芽数や有効茎数は少なかった。

③株養成期の生育

生育調査は9月下旬、根中糖度の測定は11月に行った。

9月上旬の一時的な高温により萌芽は見られたが、昨年よりも少なかった。

9月、10月は土壌が湿潤であったため、茎葉の黄化は遅かった。根中糖度は、低かった昨年よりも高かった。

表 R1 秋季生育調査結果 (JAびばい管内、9ほ場調査)

作型	草丈 (cm)	有効茎		GI	斑点病 発病指数	根中糖度 (%)
		茎数(本/m)	茎径(cm)			
ハウス	188.4	12	1.30	2,959	2.1	22.5
露地	立茎	175.1	15	1.19	3,086	20.2
	慣行	184.1	19	0.94	3,262	21.4

草丈：トッピング実施ほ場合含む 有効茎：茎径0.5cm以上の健全茎

GI：平均草丈×1m当たり茎数×平均茎径

斑点病発病指数 0：発病なし 2：病斑が認められ、一部落葉、黄化
4：株の1/2以上が黄化、落葉

2. 病害虫の発生状況

斑点病や茎枯病、疫病は、全期間において発生が少なく、きれいな茎葉であった。

カメムシ類は5月下旬から発生を確認し、アザミウマ類とともに7月下旬から多発し、8月いっぱいには被害が大きかった。特に露地作型では、夏芽の製品率の低下につながった。

ハダニ類は8月上旬からハウス作型で発生が見られ、9月にかけて多発し、茎葉が黄化したほ場があった。

3. 令和2年の栽培に向けて

①かん水、施肥は遅れずに、十分与える
昨年は5月中旬から8月上旬にかけて、干ばつによりほ場が乾燥したうえに、ハウス作型でのかん水不足が目立った。7月下旬から8月上旬は、ハウス作型では収穫のピークとなる時期であるため、特に7月中旬から8月中旬までのかん水量を多くする。また、ほ場の土質やかん水間隔によって水の浸透具合が違いため、場合によっては浸透を確認する。

夏期の追肥は、翌春のための株養成にも有効であるため、夏芽の収穫を問わず、8月中旬までに行う。また、樹勢低下が見られる、想定される場合は、葉面散布を行う。

②防除の徹底

昨年は各種害虫が大発生し、被害が大きかったことに加え長引いた。重点防除時期である7月中旬から8



月中旬（立茎栽培では収穫ピーク時。慣行栽培は二次萌芽し、成茎となる時期）までの防除は外さず、しっかりと行う。防除の際は、株元までかかる水量で散布する。

また、毎年発生が多い場合は、害虫の越冬率を下げるため、11月以降の晩秋に、茎葉を刈り取り、ほ場外へ搬出する。

ハスカップ

1. 令和元年の生育経過

4月20日頃から発芽、展葉し、5月上旬より開花が始まった。

開花期以降は、5月20日の強風により落花が見られた。果実の肥大期は少雨であったため、果実は小粒傾向に加え、収穫目前であった6月16日の強風により熟果、青果ともに著しく落果した。

収穫は6月20日から始まったが、小粒と落果により著しく減収し、3年連続の不作となった。

病害虫の発生は、病害は目立たなかったが、早くからアブラムシ類の発生が多く、収穫中から秋季まで目立った。

2. 令和2年の栽培に向けて

①防風網の設置による風害対策を行う

②夏秋季の管理を徹底する

8月以降は翌年の花芽が作られ、養分を蓄積する大事な時期となる。夏季は樹勢の強い株を中心に、日陰

をつくる新梢を間引き、樹冠内に日が届くようにする。秋季は、老朽化した過繁茂な主軸枝や樹高が高く伸びすぎた枝の切り戻し、害虫が寄生した枝の除去などを行い、沢山取れる、作業性の良い骨格づくりを行う。

園芸全般

令和2年度に向けて

近年は局所的な豪雨や異常な低温や高温など気象的要因の影響による減収がみられる。ほ場の状況をよく確認し、透排水性対策から取り組む。心土破碎などの機械による透排水性改善、明きよ・暗きよの効果確認、緑肥やたい肥などの有機物導入など、基本的技術を励行する。

施設栽培ではハウスへの雨水浸入による根張り不良を防ぐため、ハウス周りの明きよの効き（施工深・排水経路）を確認する。降雨が続くと湿度が高まり、灰色かび病が多発しやすくなる。薬剤防除を定期的に実施するとともに、換気を適切に行い、温湿度コントロールをする。

生育期間中は病害虫の初発を逃さないようによく観察し、適期防除を行う。また、散布水量を十分確保し、薬剤の効果をよく確認した上で、系

統の異なる薬剤によるローテーション防除に努める。

【文責】アスパラ・ハスカップ・農産園芸課
その他：空知農業改良普及センター

各作物の詳しい内容については、左記の担当部署までお尋ねください。

《水稲・小麦・大豆》

米 麦 課 TEL 6310526

《玉ねぎ・アスパラ・ハスカップ》

農産園芸課 TEL 6310527



美唄市農協給油所からのお知らせ

2月1日より営業時間に変更になります！

いつも給油所をご利用頂き、誠にありがとうございます。

この度、新たな労働シフト・多様な働き方を実施するため、2月1日より営業終了時間を変更させていただきます。

皆様には大変ご不便をおかけ致しますが、何卒ご了承のほど宜しくお願い申し上げます。

令和2年2月1日（土）より 営業時間 7:00~19:00



モナ・カサンドラ【プロフィール】 占いを学術的に解析する「ルネ・ヴァン・ダール研究所」の研究生となり、占星学のロジックを徹底的に解説・探求。コンピュータによるホロスコープ作成の道を開いた。現在は執筆活動を始め、さらなる占星の研究を重ねている。
ルネ・ヴァン・ダール研究所 <http://www.rene-v.com/>



上昇運。待っていると自然と状況が整ってきそう。スローモードで動いて。サプライズプレゼントの予感あり



挨拶する寺崎新青年部長

率先垂範を胸に 組織の牽引を決意

J Aひばい青年部は1月10日、第71回通常総会をJ A 3階大会議室で開き、部員35人が出席した。新部長に寺崎涼太郎さんを選んだ。

開会で加藤雅樹部長は「昨年は新たな挑戦に挑み、成功した1年だった。今年も盟友力を合わせてさまざまな活動を展開していきたい」と挨拶。岸定代表理事組合長は「青年部活動が対外的に評価を得られていることをうれしく思う。今後はもっとJ Aを知る活動にも取り組んでもらい、若い世代の声をJ A運営に反映したい」と期待を込めた。

総会では全6議案を原案通り可決。寺崎新部長は「青年部をしっかりと盛り上げていきたい」と決意を述べた。

部長以外の新役員は次の通り。

●副部長 川田竜也（再・茶志内1）、土屋陽輔（再・進徳）、今田雅之（新・北美唄）●委員長 楠夕輝（新・茶志内協和）、塚本健二（新・北美唄）、山角翔太（新・開発）●監事 金子堅太郎（再・上美唄）、伊藤聡寿（新・中村）



挨拶に立つ谷村女性部長

J Aと女性部の 関係強化を期待

女性部は1月9日、J A 3階中会議室でJ A役職員との懇談会を開催。女性部役員7名とJ A役職員8名が出席し、女性部の在り方やJ Aへの要望などについて話し合った。

始めに女性部より今年度から2年計画で取り組む女性部組織と活動内容の見直しについての状況報告を行い、今後の活動を見据えた組織改革への協力を役職員に申し入れた。

他にもJ Aの事業運営に対する質問や要望が女性部役員から多く寄せられた。これらに対応した岸定代表理事組合長は「女性部に必要とされるJ Aであるよう真摯に対応し、双方協力してJ A事業を盛り上げていきたい」と女性部との関係強化を期待した。

谷村清美女性部長は「自分たちの思いを伝える貴重な機会。よりよいJ Aと女性部を目指してこれからも女性目線での意見で貢献したい」と話した。

今後女性部はJ Aと連携してJ Aの事業運営の一端を担う立場として改善に取り組んでいく。



手づくりのしめ飾りをお目当てに多くの人が集まる



豚汁やおぼろぎりに並び市民ら

毎年恒例！ 豚汁に長蛇の列

女性部は令和元年12月11日、コアビバイのふれあいサロンで収穫祭おぼろぎ2019を開催。訪れた200名を超える市民らに新米おぼろぎのおにぎりなどを振る舞った。

今年で23回目となる収穫祭では、女性部員が手作りしたしめ飾りや手芸品を販売。特にしめ飾りは毎年多くの市民が買い求める目玉商品となっている。さらに美唄の農産物を食べようと題した試食会では、新米おぼろぎのおにぎりや女性部加工部会が仕込んだ味噌を使った豚汁、部員自慢の漬物を無料で配布。出来秋に感謝し市民らと喜びを分かち合った。

また会場では新米おぼろぎを1kg500円で販売。収益の一部を令和元年度台風等にかかるJAグループ支援募金に寄付するとし、賛同した多くの市民が購入した。

谷村清美女性部長は「毎年多くの人が足を運んでくれてとてもうれしい。これからも美唄の農産物の素晴らしさを色んな人知ってほしい」と収穫祭の継続に意欲を示した。



左から青木局長、好川さん、福田さん、伊藤さん、岸組合長

手づくりしめ飾りで 豊作を祈願

JAは令和元年12月24日、空知総合振興局を訪問し、青木誠雄局長に組合員が手づくりしたしめ飾りを贈った。しめ飾りは12年連続で寄贈している。

この日はしめ飾りを作った上美唄開拓の福田ひろみさんと伊藤文字さん、好川美智代さんの3名も岸定代表理事組合長と一緒に訪れ、美唄産おぼろぎの稲わらで作った「福亀」5本を手渡した。

もしもの時の 防災知識を覚えよう

フレッシュミズ部会は令和元年12月13日、JA3階大会議室でまちづくり出前講座を開催、部会員と組合員合わせて12名が参加した。

災害に備えてと題した講習会では美唄市の危機管理対策室より防災マップの活用法などを学んだほか、消防署救急1課の本田雅洋救急係長による救急講習会に参加者らは真剣なまなざしで耳を傾けた。



人形を使いわかりやすく心肺蘇生法を学んだ

理事会だより

定例理事会

12月13日

《報告》

①令和元年11月末現在、業務財務報告

②常務委員会報告

③農家経済改善対策委員会報告

④農業振興基金事業実施・完了報告

⑤第11次JAびばい農業振興計画進捗

状況報告

⑥令和元年度決算推定報告

⑦その他

《議案》

①令和元年度自己査定に係る不動産評価基準の設定について

②大口貸出先且つ特定組合員に対する資金の貸付について

③特定組合員に対する資金の貸付について

④特定組合員を含む団体に対する資金の貸付について

⑤平成30年産主食用米の共計追加精算について

⑥平成30年産水田活用米穀の最終精算について

⑦令和元年産水田活用米穀の概算精算について

⑧令和元年産特定米穀の精算について

⑨令和元年度らいす工房調製米穀の精算について

⑩平成30年産大豆の最終精算について

⑪令和元年産共計玉葱の概算金支払に

ついて

⑫年末手当の支給について

⑬その他

…全議案承認

《その他報告事項》

①令和元年度経営所得安定対策交付

状況報告

②令和2年度営農計画書審査日程報告

③令和元年度産米・大豆集荷状況報告

④生産施設操業状況報告

⑤経済事業業況報告

⑥その他



臨時理事会

12月20日

《報告》

①特定組合員のクミカン収支見込報告

②令和2年度第2回作付意向調査報告

③令和2年度以降の畑作物直接支払交付金概要報告

④令和元年度大豆集荷実績報告

⑤その他

《議案》

①令和元年度第3・四半期末監査意見

②令和2年度内部監査計画について

③資産の償却・引当基準の一部改定について

④特定組合員に対する資金の貸付について

⑤令和元年度主食用米の概算金および

共計内買取品の追加精算について

⑥令和元年度花き・野菜共計品目の最終精算について

⑦平成30年産普通小麦の最終精算について

⑧平成30年産国内麦流通円滑化特別

対策事業交付金の支払および規格外

小麦の最終精算について

⑨令和元年度普通小麦の追加概算金に

ついて

⑩給油所営業時間の改定について

⑪その他

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

…全議案承認

3つの特集 “いま”知りたいテーマの
特集が毎月3つ

らくピカ
掃除術

最高!
ご飯のお供

暮らしの心りあふる
パズル

年6回
別冊付録が
付きます

家の光 11

特集 らくピカ掃除術

「らくピカ」の便利グッズ、最新の掃除機、わたしたちの暮らしを応援するパズル、石川佳純

健康 健康寿命100歳めざして

手芸 手軽に作れて暮らしに役立つ!

料理 毎日のごはん作りの強い味方

血圧を下げる
ニッコニコ体操

ハンドタオルアート

毎日のごはん作りの強い味方

読みたい記事がきっと見つかる!!

食と農から始まる。JAグループのファミリーマガジン

定価(税込)
●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
●家計簿付き12月号 1,027円
※消費税変更にともない、2019年12月号より定価改定いたします。

JAグループのロゴ

ご購入またはお問い合わせはコチラ JAびばい企画相談課 TEL 0126-63-2165

JAグループ通信

発信元:JAグループ北海道第42号

JA北海道
中央会

JAグループ北海道は、日米貿易協定の発効を目前に控えた状況下で、総合的な TPP 等関連政策大綱などの見直し、経営所得安定対策の単価改定、加工原料乳補給金単価の設定など、農業の担い手が意欲と希望を持って一層の農業経営の体質強化に向かえるよう、政府・与党等に対し働きかけを行って参りました。

結果として、農業関係補正予算、当初予算とも前年を上回る額が措置されることに加え、農業生産基盤の強化や家族経営への支援などが盛り込まれるなど、北海道の農家・組合員の営農継続に一定の道筋をつけられました。

今後も北海道の農家・組合員が国際競争や災害に負けない力強い農業・農村の構築と所得向上の実現を図り、持続可能な北海道農業の確立に向けて取り組んでまいります。



※吉川前農林水産大臣に要請書を手渡すJAグループ北海道要請団



ホクレン

ホクレンは、コーポレートメッセージ「つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に」を広く発信し、北海道農業とホクレンの事業をわかりやすく伝えるためにアニメーション動画を制作し、12月19日からYouTube上で公開を開始しました。動画の主題歌には榎原敬之さん、主人公役の声優には「なつぞら」の番長役の板橋駿谷さんを起用し、WEB媒体を活用して道内生産者・JA および全国の消費者・取引先へ広く発信していきます。



JA北海道信連

JA 北海道大会の将来ビジョンの実現に向けて、JA グループ北海道農業経営フォーラムを札幌市内で 11 月に開催しました。今回のフォーラムでは、「農業経営に地域の魅力をいかす」をテーマに、宮城県で主に水稲と養豚を営む有限会社伊豆沼農産の伊藤社長より農村自体を産業化する取り組みについて、商品ジャーナリスト北村森氏より道内農畜産物の魅力を伝える秘策について講演がありました。



JA北海道厚生連

令和元年 11 月 30 日(土)遠軽厚生病院にて遠軽町・湧別町・佐呂間町の中学生を対象に医療技術体験セミナーを開催しました。

当日は、46名の参加がありました。薬剤師や検査技師などの仕事を知り、進路選びの参考にしてもらう狙いで、毎年実施しています。

今後も継続して実施していきたいと思っております。



JA共済連北海道

JA 共済連北海道は、11月8日より「JA 共済有村架純&浜辺美波の限定 LINE スタンプ」のダウンロードを開始しています。JA 共済限定 LINE スタンプの提供は、JA 共済へ興味・関心をもってもらっていただき、資料請求者をより一層拡大していくことを目的としております。有村架純&浜辺美波の限定 LINE スタンプのダウンロードについては、QRコードを読み込み、アンケートに回答いただきますとダウンロードすることができます。



こよみ・行事

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

- 3日 ○給与辞令交付
- 11日 ○建国記念の日
- 12日 ○信用事業リスク管理強化委員会
- 女性部生活作品展
- 13日 ○企画会議
- 14日 ○定例理事会
- 17日 ○臨時企画会議
- 20日 ○臨時理事会
- 23日 ○天皇誕生日
- 24日 ○振替休日
- 26日 ○第67回女性部通常総会

農協職員資格認定試験合格者

～上級～

小山あかね (総務課)

～中級～

佐藤 諒 (米麦課)

佐藤 俊弥 (農業資材課)

杉野 有沙 (総務課 生活店舗係)

池田真由美 (金融課 融資係)



おめでとう！
これからも頑張ってくださいね！

J A の 概 況

< 12月末 >

○皆さんの貯金	25, 007, 076千円
○皆さんへの貸出金	4, 983, 113千円
○皆さんの出資金	718, 510千円
○組合員数	(正) 802人 (准) 3, 715人 (計) 4, 517人

美唄市農協生活改善
運動推進協議会



▼開
林 発

美佐子 さん

(七十七歳)

十二月二十一日死去

茶志内協和

▼五十嵐 欽一郎 さん

(九十七歳)

十二月二十日死去

お悔やみ申しあげます

編 集 後 記

わたくしごとではありますが…

1月号の表紙を飾った左の写真は
昨年11月に開催されたフレイズ主催
の親子レクリエーションの様子なん
ですが、なんとこの写真、日本農業新聞
編集部から【月間優秀写真】11月写真
の部JA賞に選んで頂きました！

まさか大人になってから賞をもら
えるなんてうれしすぎる〜！すべて
はこの子がかわいらしいお顔を私に
向けてくれたから頂けた賞ですが、
これからもたくさんの方の生き生き
した表情が撮れるように頑張って取
材していきたいと思えます！



撮影に協力してくれたのは上美唄の
金子堅太郎さんと紗希君さんの長女
彩花 (いろは) ちゃん (当時3才)



ATM手数料 について



JAびばい本店ATMの土曜日営業休止にあたりご不便おかけしております。
コンビニや郵便局、提携金融機関ATM等でもお取引が可能となっておりますので、下記の表でご確認ください。



【当JAのATMをご利用になる場合の手数料】

ご利用のキャッシュカード		JAバンク		三菱UFJ銀行		他金融機関	
お取引内容		出金	入金	出金	入金	出金	入金
平日	本店 9:00 ~ 18:00	無料		無料		110円	
	共練 9:30 ~ 17:30					110円	
土曜日 (※)	共練 9:30 ~ 16:30			110円		110円	

(※) 本店ATMは土曜休止日となります。

(注) 日曜・祝日は休止日となります。また1月1日~3日、12月31日は曜日に関わらず休止日となります。

【当JAのキャッシュカードで当JA以外のATMをご利用になる場合の手数料】

ご利用頂けるATM	セブン銀行 ローソン銀行 (※2) イーネットATM (※3)		三菱UFJ銀行		ゆうちょ銀行 (※4)		その他 (※5) (MICS提携)	
	出金	入金	出金	入金	出金	入金	出金	入金
平日 8:45 ~ 18:00 (※1)	無料	無料	無料		無料	無料	110円	110円
土曜日 9:00 ~ 14:00			110円		110円	110円	110円	
平日・土曜日のその他の時間帯および日曜・祝日	110円	110円	110円		110円	110円	220円	220円

(※1) 稼働時間はATMにより異なります。またATM稼働時間であってもJAバンクのカードによるお取引ができない場合があります。1月2日・3日、12月31日の手数料は祝日と同じです。

(※2) ローソンに設置されているローソン銀行ATM以外のATMはサービス内容が異なる場合があります「ローソン銀行ATM」マークをご確認のうえご利用ください。

(※3) イーネットATMはファミリーマート・セイコーマート等のコンビニエンスストアに設置されています「イーネットATM」マークをご確認のうえご利用ください。

(※4) ご利用の金融機関により、手数料が異なる場合があります。詳しくはご利用ATMの掲示等でご確認ください。